

## 第5回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録

1. 日 時 平成24年6月25日(月) 18:32~20:02
2. 会 場 エコセンター2000 3階 視聴覚室
3. 出席者 田中座長、松井副座長、服部委員、和田委員、高橋委員、菅野委員、河西委員、中山委員、深川委員、加藤委員、河原委員(計11名)
4. 事務局 網走市:川田企画総務部長、岩永企画調整課長、武田係長、高畑主事  
大空町:松川主幹、中村主査、福原主査

### 開 会

【事務局】それでは定刻になりましたので、開催させていただきます。

本日はお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

これより第5回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催いたします。

本日の出席は委員の方が11名でございます。

7名の委員さんをご都合により欠席されておりますが、定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱第6条の規定により委員の過半数以上が出席しておりますので本会議は成立をいたします。

これからの議事につきましては、田中座長にお願いをいたします。

### 議 事

【座 長】それでは、皆さんこんばんは。

お忙しいところ天候不順のなか、ご参集いただきましてありがとうございます。

さて今日は、第5回の共生ビジョン懇談会ということで、一応このビジョンは策定がなされた訳ですけれども、ご承知のとおりこのビジョンは、数年をかけて実情に合わせながら、一步一步拡充、拡大の部分もあるかもしれませんけれども、質を高めていく作業を行っていきます。

その作業に直接関わるのが我々委員ということになりますので、今日も積極的なご意見を賜りますよう、よろしく願いいたします。

なお、6時半から始まりまして、予定としては8時位を目途に考えておりますので、どうぞ進行についてご協力の程お願いいたします。

それでは、早速ですが、次第に基づいて進めさせていただきたいと思っております。まず、第一の議案ですけれども、「新規委員の紹介について」事務局からよろしく願いいたします。

【事務局】まず3名の委員の方が退任されたことを報告させていただきます。

網走市の方ですが、網走漁業協同組合の小林委員、そして網走市観光協会の渡辺委員でございます。

そして大空町の方では、大空町社会福祉協議会の清水委員でございます。

そのことに伴いまして、後任として新たに委員を委嘱いたしましたので、ご紹介をさせていただきます。

最初に大空町社会福祉協議会の高橋委員です。

網走漁業共同組合の中川委員、網走市観光協会の田上委員の2名でございますが、本日はご都合により欠席をされております。

続きまして、事務局職員にも変更がございますので、紹介をさせていただきます。

最初に網走市ですが、私ですが企画調整課の課長をしております岩永と申します。よろしくどうぞお願いいたします。

次に企画調整課企画系の武田係長です。

次に同じく企画系の高畑主事です。

続きまして大空町でございますが、大空町総務課の中村主査でございます。

また、本日は大空町総務課の山本参事が都合により欠席しておりますので、代理として大空町総務課の松川主幹が出席しておりますので、ご紹介いたします。

【座長】ありがとうございました。

それでは、続きまして次第の2番目ですが「協定の変更内容について」これも事務局から説明よろしくお願いいたします。

【事務局】それでは資料1号により協定の変更内容について、ご説明をさせていただきます。

本年3月16日付けにおきまして、新たに連携する取り組みを追加するため、協定を一部変更いたしました。

まずは資料1の1ページの表の右側をご覧くださいと思いますけれども、防災の項目につきまして「ウ、両市町で連携して、防災体制を充実させる取組を行う。」を追加いたしました。

続きまして、2ページの表の右側、下の方でございますけれども、ご覧くださいと思います。

産業振興の項目について、「ウ、両市町で連携して、地場産業の振興に必要な取組を行う。」を追加いたしました。

最後に、3ページの同じく表の右側でございますが、圏域内外の住民との交流・移住促進の項目について、交流人口の拡大ということで、「ア、両市町で連携して、文化・スポーツ合宿や各種イベント情報の圏域内外への発信などを行う。」を追加いた

しました。

これらに関する具体的内容のビジョンへの反映（案）につきましては、後ほどご説明をさせていただきたいと思えます。

【座長】ありがとうございました。

今、事務局から協定内容の変更について概要が説明されました。

主な内容としましては、防災に関わる部分、産業振興の部分、交流、移住受け入れの部分、この3点について、ご説明がありました。

これらのビジョンへの反映についての説明は、後ほどお伺いするというので、今のこの時点で確認したい点とか質問したいというような点がございましたら、遠慮なく発表して下さい。

交流の部分については、文化・スポーツが主とされているということですが、後ほどご意見がありましたら詳細にお伺いするというので、それでは次第の3番目の議事に入ってまいりたいと思えます。

1つ目は、網走市大空町定住自立圏共生ビジョンの改定（案）について、これも事務局からご説明をお願いします。

【事務局】それでは、まず網走市大空町定住自立圏共生ビジョンの改定にあたりまして、基本的な考えについてご説明をさせていただきます。

事前にお配りしております共生ビジョンの改訂版たたき台につきましては、2ページをご覧くださいと思えます。

計画期間につきましては、平成23年度から平成27年度ということで、これに変更はございません。

従いまして28年度、29年度というふうに後ろに延びていくという計画にはなっておりません。

あくまでも、この期間において実施すべきものであると捉えていただきたいと思います。

そのため、今回は第4章、第5章の取組体系と具体的取組について加筆修正を行ったものを、たたき台としてお示ししております。

今回のたたき台作成につきまして、3つのポイントがございます。

1点目ですが、「平成24年度予算への対応と新規5ヵ年計画数値への対応」でございます。

2点目は、「協定に追加された3項目への対応」でございます。

3点目は、「懇談会において指摘を受けた事項に関する修正」でございます。

まず1点目の「平成24年度予算への対応と新規5ヵ年計画数値への対応」につき

ましては、20ページを参考にご覧いただきたいと思いますが、第4章、第5章とも赤字で表現をしている箇所が「平成24年度予算への対応と新規5ヵ年計画数値への対応」に該当する部分となっております。

これにつきましては、事業費の修正、新年度事業に合わせた語句の修正、並びに事業の統合や追加等がございます。

修正箇所数が大変多いので、個別の説明は省かせていただきますが、ご不明な点がございましたら、後ほどご質問いただければと思っております。

なお平成23年度の決算額が修正されておりませんが、これにつきましては9月の議会を経て公表されるものでありますので、今回は事務局(案)に反映をしておりません。

平成23年度の決算額につきましては、10月に開催を予定しております次回の懇談会で対応させていただきたいと考えております。

次に3つのポイントの2点目でございます。

「協定に追加された3項目への対応」でございますが、先ほど次第の2番でご説明させていただいた部分に係るものでございまして、27ページを参考にご覧いただきたいと思っております。

青字で修正をしてある部分がこの2点目のポイント「協定に追加された3項目への対応」でございます。

追加された項目の1つ目として防災体制の充実の取り組みについてですが、取組体系として14番目の下のフレームになりますけれども「災害時相互応援体制整備事業」を追加してございます。

この取組事業といたしましては、第5章の45ページになります。ページ数が右上の方に横向きになって書いてありますが、45ページをご覧いただきますと、第5章にも同様に14番目の項目を追加し、新しく「災害時相互応援体制整備事業」を追加しております。

このことにより、元々13番の網走地区消防組合運営事業に含まれておりました網走市の防災諸費と、大空町の災害対策事業費につきましては、14番の取組体系に付随する方が相応しいのではないかとということで、14番に移動させ、13番の事業概要につきましては網走地区消防組合に特化する記載に変更してございます。

次に追加された項目の2つ目としてですが、地場産業の振興の取り組みについてでございます。

31ページをご覧いただきたいと思っております。

取組内容に「地場産業の振興に取り組むこと」を追加しております。

取組事業といたしましては、先ほどの説明と同様に第5章の48ページに地場産業の振興ということで、農業林業の分野2事業を追加させていただきました。

次に追加された項目の3つ目ですが、交流人口の拡大の取り組みについてです。第4章35ページをご覧くださいと思います。

取組体系としましては、「文化・スポーツ合宿誘致とイベント開催の情報共有事業」を追加してございます。

取組事業といたしましては、第5章52ページに新たに10の事業を追加してございます。

続きまして3つのポイントの最後、3番目でございますが、懇談会において指摘を受けた事項に関する修正でございます。

緑色の字で修正してある部分が該当するところでございますが、まずは第4章の28ページをご覧くださいと思います。

この28ページから30ページまでですけれども、福祉サービスに関しまして、子育て、障がい者、高齢者というカテゴリーの違うサービスを一括で括っていたものを、各カテゴリーに細分化いたしました。

取組事業といたしましては、第5章の46ページと47ページをご覧くださいと思います。

第4章と同様に各サービスごとに細分化をいたしました事業を、それぞれの項目に記載させていただきました。

以上が網走市大空町定住自立圏共生ビジョン改定案としてのたたき台のご説明となります。

また、ここで、欠席をされております委員のうち3名から事前にご意見をいただいておりますので、ご報告をさせていただきます。

網走厚生病院の藤永委員からのご意見でございますが、4ページをお開きいただきたいと思います。

4ページから6ページにかけて、統計に使用している数値でございますが、17年の国勢調査の数値となっております。

これが古いのではないかというご意見がございました。

これにつきましては、事務局といたしましては、現在22年国勢調査の数値も整ってきておりますので、次回10月の委員会の際には各統計数値を新しい数値に置き換えて、懇談会にお示しをしたいというふうに考えております。

それから二人目、網走商工会議所の尾崎委員からのご意見でございますが、網走市が取り組もうとしている一般廃棄物処理場について、広域化の検討は行っているのかというご意見がございました。

これにつきましては、広域化に関する検討は行ってきておりますけれども、大空町の廃棄物処分場がまだしばらくは使用できる状況にあることから、現状はこのまま使用し、大空町の廃棄物処分用が手狭になってきた段階で、再度広域化の検討を行いた

いという状況になってございます。

最後に網走バス株式会社の我妻委員からのご意見でございますが、航空路線の確保につきましては、各団体や自治体が様々な支援を講じている訳ですが、空港からの足の確保に関して言えば、先般懇談会の中でも言わせていただいたということで、生活交通路線に対する補助金に付いて、これが全額補助されているわけではなくて、みなし運行回数による補助金カット分については、現在については、網走バス株式会社が負担して路線を維持している状況でございます。

最近では航空路線も使用機材が小型化されたことにより、便数が増えている傾向にあり、小型化され、便数が増えれば増えるほど赤字が増加する。

赤字分をどうするのか、また、生活交通路線を継続可能なものにするために特効薬は見つからない訳でございますが、地球温暖化による環境問題や、高齢者による事故の増加、資源の保護等を考えると、地域住民を巻き込んだ展開が必要であるというお考えでございます。

大変難しい問題ですけれども将来圏域の住民が自由に移動する権利が奪われないように、中期的な交通対策は考えられないでしょうかという意見がございました。

これにつきましては、委員ご指摘のとおり高齢化が進むなかにあって、公共交通に頼らざるを得ない高齢者、あるいは障がい者などの移動手段の確保につきましては、喫緊の課題であると考えております。

市では、地域や関係機関の方の意見を聞きながら平成23年3月に「網走市地域公共交通総合連携計画」を策定しております。

本計画は、計画期間を平成23年度からの5年間として、網走市における地域公共交通の活性化・再生のための基本理念（『豊かなオホーツクに活気みなぎるまち網走』を目指して、人と環境にやさしく、地域の生活を支え、市民や来訪者に使いやすい『都市の装置』とする）ということを決め、4つの基本的な方針と7つの目標を設定しております。

今年度は、この計画に基づき、網走市地域公共交通活性化協議会が2地域において実証試験を行うとともに、郊外地区における住民送迎体制の構築に向けた検討等を行うことにしております。

また、北海道では、6市町（北見市、網走市、美幌町、大空町、訓子府町、置戸町）をエリアとする北見網走都市圏の「将来のあるべき広域交通体系」を定める「都市交通マスタープラン」の平成27年度策定に向けて、現在準備を進めておりますことから、北見網走都市圏における道路交通施策や公共交通施策等を検討するという状況にあるということでございます。

それぞれの委員の方からいただきましたご意見につきましては、今申し上げたとおりの報告をさせていただきたいと考えております。

【座 長】ありがとうございました。

事務局から4点ほど、欠席委員のご意見を含めると5つほどご説明がありました。

1つは計画期間ということなのですから、これが一応27年度までということ、それから先は伸展しないということです。

ですから、27年まで我々の役目も続くということになります。

それから、次が変更内容の部分ですけれども、1点目は平成24年度予算への対応と新規5ヵ年計画数値への対応ということで説明がありました。

2つ目は協定に追加された3項目への対応ということでありまして。

3点目が、懇談会で指摘があった事柄に関して修正が行われたと、これがこの資料19ページの一覧表でお分かりになるかと思えます。

協定に追加された3項目は、災害時相互応援体制事業それから文化・スポーツ合宿誘致等イベント開催の情報共有事業それから産業振興です。

それから各委員から懇談会の席上で指摘がありました部分については、福祉サービスを1つにまとめた形ではなく、子育て支援、障がい者支援、高齢者支援この3つに整理し直したということです。

それと各欠席委員からのご質問に関しては、データが古いのではないかという部分、もう平成22年度のデータが出ているはずだから、それを載せるべきだというもの、それから、ゴミ処分場の件については、もう少し広域化の検討がなされる必要があるのではないかというのと、交通の部分ですね。

だいたい以上が今説明のあった部分ですが、いかがでしょうか。

何処からでも構いませんけれども、ご関心あるところからご質問賜ればと思います。

【委 員】修正ですけれども、19ページの体系図ですけれども、体系図の結びつきやネットワークの強化のところですから、交流・移住受入体制の促進の下に、「交流人口の拡大」が一つ協定事項に入るんじゃないですか。

そして、それが文化・スポーツ合宿の方に繋がって、上からの線がなくなるんじゃないかと。

これ気が付いたものですから指摘をしました。

【座 長】ありがとうございました。

ご指摘大変ありがとうございました。

こういった事柄でも他にお気づきの点があれば、遠慮なく話してください。

【委 員】地域の交通交流の問題で今説明がございました。

我妻委員さんからは空港からの問題が出されておりますが、まさしくこの会議の中で地域交通の整備をしないと、全ての問題が、運営あるいは事業が展開していかないのではないかというお話をしておりました。

ただいまの説明で網走市地域公共交通総合連携計画ができたとして、その中で4つの基本的な方針と7つの目標があるんだと、この件についてもう少し具体的に説明していただければ、私はこれからの質問、意見はここで終わるわけですね、そのあたりをちょっと説明いただきたいと思います。

【事務局】先ほどご説明いたしました、網走市地域公共交通総合連携計画の策定とそれに伴う4つの基本的な方針と7つの目標の関係なんですけど、実は経済部の方で所管している事業でして、我妻委員さんの質問には答えている内容なんですけど、詳細については今回の会議に資料を用意しておりませんので、後ほどご用意したいと思います。

【委員】はい結構です。

【座長】よろしいですか。

交流っていうのは庁舎内での交流をもう少し…

いかがでしょうか他にお気づきの点があれば…

恐らく交流とか連携っていうことは、非常にどの自治体でも地域でも言われるようになってきたというのは、ご承知のとおりだと思うんですけども、この交流とか連携の具体的な手法とか進め方というのは、私もいくつか地域関わってますけれども、正直言って分かってないんです。

文言はきちり出来上がっているんですけども、一行ぐらいで済むような話ではなくて、現場ではもっともっと、それぞれの地域によって交流の仕方とか、それに伴う工夫が必要となってくるとは思いますけど、そういったようなことについて、何かご意見あれば、あまりこの部分に固執しなくても、ここは懇談会ですから、あまり難しい質問されると僕が困りますので、お気づきの点があったら言って下さい。

【委員】座長もそう言っていただけたので、気楽に発言したいと思います。

24ページにちょっと関わってくるんですけども、施設の相互交流の件で、文面については異議を申し上げるものではございませんが、具体的な次の段階で、ちょっとこんな事例があったんのお話させていただきたいんですけども、皆さんご存知のように女満別高校が甲子園に出場になりました。

それで、網走市の水谷市長から大空町の山下町長に、呼人のドームの施設を使って下さいというお話がございました。



山下町長が「ありがとうございます。」とお受けして、女満別高校の方にこういう話があったんで、使ったらどうでしょうかという話をしたと、それで高校内で更に野球部の鈴木監督に、こういう話があったので、調整を進めて下さいというふうになったそうです。

その鈴木監督がドームの担当者に、使用したいので日程調整をしたいという話をしたところ、ドームの担当者が、そんな話は聞いていないという状況があったそうです。

それで、聞いてみるとドームは指定管理者制度において外部委託をしているようで、何処の会社かは私分らないんですが、何処かの民間の方が受けているんでしょう。

それで、結構時間のない中で鈴木監督も農大側と直接交渉したり、かなりそっちの方で時間を取られて、結果的には2日間使用させていただき、それについては、大変ありがたく監督も高校としても大変感謝しているというお話をされておりました。やっぱりさっき言われた文言は、非常にいいんですけれども、実態として実際に相互交流する間の中で、どうしてもこういう徹底していない部分が、これからも多分出てくることがあるんだろうなと感じがしたので、この辺が大事なところなのかなと感じています。

【座長】ありがとうございました。

非常に具体的でいいお話していただきました。

実は大学でも国際化というのが、文科省から言われておまして、随分書類が山ほど来るんですけれども、現実的になると国際化というのは単位の交換とか、ダブル・ディグリーとか、留学とか、こういうような話になるんですけれども、こうなってくると、ほとんど個々の教授と相手の大学の教授との話になってくる。

文言は綺麗に書類ができていますけれども、どうやって具体的に進めるのかということになると、今おっしゃったような問題がいっぱい出てくるといえることがある。

これは、やっぱり今お話を伺っていて、このビジョンに我々がどんどん魂を入れていかなければならないというか、具体性を入れていかなければいけないんだと、現場にいる方じゃないと分からないことはいっぱいある。

本当に事なきを得て良かったと言えればおかしいのかもしれませんが、2日間使用されたということで、少し安心しました。

ただ、市長が言っているのに何故そうなるかというところは、そういうことは他のところでもいっぱいあると思うんです。

そういうことを、批判ではなく、どんどん出していただいて、行政の方で改革をしていくと、対応していくと、そういうふうに思います。

ありがとうございました。

そういったようなことでも構いませんし、本当に遠慮なくざっくばらんに意見を言

って下さい。

【委員】ちょっとお聞きしたいのですが、改訂版というのは24年に改定しますよということの原案ですよね。

少なくとも13ページにある本年3月に発生したという文言ですが、これは年で書いた方が良くはないですか。

年で書いておかないと、段々年数が経っていくので問題があるのではないかと。

もう一つ、予算について変更が記載されていますが、大きく予算が変更になった部分や、新たに行うことになった部分は、特記事項として記載すべきではないかと。

網走市の一般廃棄物処分場の関係なんかは大幅に数字が変わってしているので、そうした方が分かりやすいと思う。

中身はバックアップされていると思うが、このままでは何がどう変わったのか数字でしか分からないので、その方が親切なのではと感じた。

【座長】ありがとうございました。

今指摘された箇所以外にも、そういったことで整備をする必要がある部分があるろうかと思しますので、もう1回全体に渡って確認をよろしく願いいたします。

それから、特に変更があった部分とか大幅に数字が変わった部分については、何らかの注記なり特記事項で解説をした方が分かり易いんじゃないかと、そういうご指摘がありますから。

なかなかそれは重要なことだと思います。

ご指摘のとおり次回の懇談会では表記して下さい。

その他何かございますか。

【委員】言葉で連携とか取り組むとか、そのとおりだと思うんですが、一般的に浸透していないというのが現状だと思うんです。

大空町としては、議会で説明をされる訳ですが、なかなか説明をされても中身について理解できていないというのが現状で、今後そういう取り組みをどうして行くのか、ビジョンで終わってしまうのか現実論として、定住自立圏構想ができたことによって、こうだという手ごたえのあるものにしていくのか、その辺を今後考えていかないと、いくら会議を重ねても現実論として目に見えないと思うんですが。

【座長】重要な指摘ですね、行政と住民との連携、協定といったような協力は、心地はいい言葉なのですが、現実にはなかなかそれを進めさせるにはどうすればいいのかといった手法は、具体化策っていうんですかね、さっき大学の国際化ということを

言いましたけれども、今僕が担当しているところで起きているんですが、どうしてこんなことになるのかと考えますと、やっぱり文科省と大学との間に非営利組織が入って、もう1つの歯車を入れないと、直に住民と行政とだと歯車を噛み合わせるのが難しいと思うんです。

やはり、そういった組織が真ん中に入って、現状を行政に指摘しつつ具体的に関わっていくということをやらないと、なかなか動かないんじゃないかという気はします。

私の住んでいる町でも住民自治基本条例というものを作りましたが、協力、連携とかいっぱい言葉出てきますけど、別のところの委員会で話を聞くと全然それが、連携・協定にはなっていないと言うこともあります。

あんまり他町のことを言うと、また後で怒られてしまいますけれども、これは何処の自治体ということではなく、何処でも起こっているようなことだろうと思います。

そこで、ビジョンをもっと具体化していくためには、どういう方策なり施策なりを考えるのかというのが、今後の大きな課題になっていくと思いますが、今この場で、どうしろといっても答えは出しにくいとは思いますが、今後そういったことも含めて検討していくことが必要なんじゃないかと思います。

もし、行政の方でそれが大変だということであれば、行政を交えたもう一段フランクにした組織を作って血肉化するというのを考えるのも一つの手だと思うし、少しそのあたり具体策を考えていただけないかなとは思っています。

【事務局】今回も施設の使用料金なり使用のフラット化と言いますが、相互利用についての議論を両市町で行ったんですが、その中でもかなり網走側が大空町側に抱いているイメージと実際がかなり違っていると、逆もまたありということで、なかなか多くの領域の施設を共通で利用するという提案がなかなかできないという状況がありました。

それもお互いの町の話は、あんまり良く分かってなかったということもあり、第一歩と言えるかどうか分からないんですが、今年度は両市町の職員の研修の交流を行うということで、複数回行うとなっておりますので、そのあたりで基礎的な話になってしまいますが、知っているつもりでいることを改めて正しく理解するというか、そういう取り組みからまずはやっていかないと、なかなか今ご指摘のあったようなことは改善されていかないのかなという気はしています。

【委員】あと折角これだけの委員がいらっしゃるんですから、それぞれの分野で関わっていただいて、潤滑剤になっていただくようなことも必要なんじゃないかなと、例えば社会教育の分野については、網走市の松井副座長と大空町の菅野委員というふうに、これは我々が分からない部分でいろんな問題をよくご存知だと思いますので、そういったようなことについて声を上げていただくとか、そういうことも必要ではな

いかと感じています。

【委員】先ほどの意見に反論する何物でもないのですが、この今日の会議の2番目に今後の懇談会をどうするのだということになるんだらうと思いますけど、この定住自立圏共生ビジョン懇談会が実行部隊に移行するのか、あるいは座長が言われたとおり、そうは言わなくても、もう少し具現化していくのか、こういう大局的な論議を一度してみなければいけないだらうと、一步踏み出さなくていいのかと言われると、またちょっと違う。

このあたりが、私の委員として、まだ腹をくくっていないんです。

ですから、今、大変良いところまで皆さんの意見が出てきているので、これからが大切だと、やはり実行部隊は別の組織が適当なのかなと思うんですけども、そのあたりを今日はある程度の方角を示唆していただければと思います。

【座長】いかがですか。

確約はこの場ではできないと思うんですが。

【事務局】私は4月に来たばかりで、具体的に2ヶ月の中で方向が定まっているかと言われると、その段階ではないのですが、今、委員さんからお話があったように、このまま協議体と言いますかこの段階のままで行くのか、あるいは運動を伴うような組織に改変するのかというのは、正直なところまだはっきり方向が定まっておりません。

【座長】恐らく平成27年までこの形で6月と10月、最初は4月と10月で、今回は6月と10月ですけども、年2回の懇談会開催を平成27年度まで続ける。

こういう形ですが、委員と僕ほぼ同じだらうと思うんですけども、こういう形で平成27年度まで続けていって、実質的なものになるのかなと心配もちょっとしている訳です。

例えば、これはこれで平成27年度まで必要であるが、これはこれで決まっていますから、これが変わるということはない。

ただこの懇談会をもう少し肉付けしていくような、下部か上部かの組織が間に必要なんじゃないかと、それがあればもう少し具体的に形の見える話ができるのではないかと感じている。

もう少し中身についてしゃべらせろと言うのが各委員の気持ちだらうと思いますので、そこら当たり、折角そうおっしゃってくれるのでしたら、もう少し具体的にしてもらおうという場を作ったら、もっと行政が頭を悩ませなくていいような感じになってくるんじゃないかと思います。

【事務局】この懇談会を更にもう少し細分化して、例えば産業振興でしたら産業振興に特化した形で少し細かく議論していただければと、福祉は福祉でそれぞれの社会福祉協議会を中心としてどんなことができるか、子どもが求めるのは例えば来年度予算に向けてこういう事業を取り組んでみたらどうかというようなご提案をしていただければ、それを行政として予算付けしたり肉付けしたりといった方法も考えられるのかなと思います。

ですから、10月の懇談会で例えば来年度に向けた予算、こういうことを調査事業でもいいので取り組んでみたらというご提言がいただければ、凄く我々としても進むべき方向が少し見えてくるかなということは考えています。

なかなか先ほどから議論の中で連携と言葉で言っている、具体的に何をやるんだと言った時に大空町さんと色々話をしていても、なかなか具体的な玉が見つからないというのが現状でもあります。

ですから、こういった懇談会を通じてそういうような種を見つけて、我々としても何かそういったものをご提言いただければと思っております。

【委員】私は観光の分野で来ております。

ビジョンの作成に当たっては、どんな文章でも正直書けるんですけども、実際に行政が執行するとなると、予算ありきの話を言われますが、観光の関係で何でこんなに数字が変わるのかなと思って見ていたら、40ページなんですけれども、これは連携以前の問題で、大空町から松川主幹が来てますからお聞きしたいのですが、大空町の観光案内業務委託等観光振興に係る総体事業を実施するということで、平成24年度については8,453千円ついているんですけども、平成25年度が1,045千円という予算しかついていないんですよ。

この根拠は実際のところ、我々に説明されていないし、連携以前の問題で大空町自体の問題なんですけど、これでいくと我々観光協会は今後、色々話していく中でも全く事業が成り立たない状況が、今の段階で想定されますが、これをここで論議しても仕方がないし、予算折衝の場でもないのだが、実際その辺の部分を、それぞれの予算が行政で色々な形で連携しながら進んでいくという前提の中であると思うんですけども、そういう部分も考えていただかないと、我々の組織自体が成り立たなくなる。

会長が何だかんだ言ったって結果としてお金がなかったら事業ができませんので、そのことを頭に置いたビジョンの策定にしていきたい。

これはプランですから、今の段階では決定されたものではないけれども、ただ我々ここに来ていてこの文章見ていて何も言わないで帰ると、判っていて何も言わなかったのかということになるので、どういう経過でどうなっているのか、その辺よろしく

お願いします。

今日、回答ということは考えてませんけれども。

【座長】そういったことも含めて、さっきお話があったようなことを特記事項に書く形で作るようにすればいいと思うのですが、大空町説明しますか。

【事務局】先ほど委員おっしゃったように具体的な事業の中身というものが、ここでは見えてこないのので、例えば観光振興一般事業費となると色々な観光に関わる部分を束ねてこの数字が出ているものですから、その辺が判らないと先ほどご指摘のとおり、特化して記載すれば判り易くなるのかなと思いますし、今回800万円とか100万円というのは総合計画というものがあまして、そちらの方から転記している訳なんです。例えば平成24年度が800万円で平成25年度が100万円ということになると、平成24年度の場合、新規事業でプロモーションの事業を新規でやっているのので、その辺が上がって見える部分はあるので、その辺はご理解いただきまして、詳細の事業の部分については、また後ほど10月に作る時の部分の中で明記されることになると思いますので、その辺ご理解いただければなと思います。

【委員】ここは予算の折衝の場ではないのだが、その辺を踏まえないと我々は予算がなければ、人も雇用できないし今後、将来、来年の事業にも影響するし、まあ、その辺については個別に説明していただければいいことなんです。あと、連携の部分で言えば、網走の商工会議所が主体となっている花火大会について、極力、女満別とバッティングしないように、網走が第4土曜日と決めていますので、女満別は1週ずらして実施をしている状況があります。

そんなふうにお金のかからないことでできるコミュニケーションの連携というものを図っていく必要があり、こういう場などで行っていくことがある。

ただ、ここに予算が羅列されているので、予算が事業の原点になってくると思うので、それを踏まえた中でお願いしたいと思う。

【座長】なかなかこの場だけで解決するというのは難しいんじゃないかと思う訳ですが、ただ、こういった意見がどんどん出ないと意味が無い、意味が無いといったら言い過ぎなのかもしれませんが、質なんです。

こういった意見をどんどん出していただかないと、刺激にならないということがありますので、いかがでしょう、この会議以外でも例えば各分野で交流をすとかいったような意見交換をする場を設けるとかいったようなことを、もちろん予算がないとといったようなことがあるのかもしれませんが、確かに予算と法律がないと仕事ができ

ないという現実はあるんですが、それ以外のところでは、予算も法律もない、だから工夫するんだという部分も重要になってくると思う。

【委員】観光分野ばかりで申し訳ないんですが、私も観光分野ということで、1つ目は先ほどの続きになりますが、一番誤解を招きやすい一般論として、非常に素晴らしいネーミングで網走市大空町定住自立圏共生ビジョンという非常に理解しづらい名前なんです。

ただ僕らは中身について、それなりに掌握はしているつもりで、大空町としては2つの観光協会があって、まだ合併はしてないんですけども、実態として女満別の観光協会にもお世話になるんですが、網走市の観光協会にお願いをしてパンフをお互いにやり取りをすると、そういった中で、共生ビジョンを結んでいるということが大項目で色んな協定をしている。

あるいは中国のお客さん、台湾のお客さんを網走さんに紹介してもらう、また逆にうちがご紹介をするという、そういった取り組みをしております。

そういった良い実例も当然出てくるだろうし、そういった意識の問題かなと、そうじゃないとなかなか一般論として誤解をされかねないと、事実上風評みたいなものが出てますから、ですからそういったものが強くならないうちに、良い方向の方にスイッチをした方がいいのかなと思います。

【座長】ありがとうございました。  
いかがでしょうか、その他の委員の方。

【委員】分野によっては、なかなか網走市と大空町2つの町だけの特化というのは難しい部分はあると思う。

特に社会教育の関係ですと、私は元々子供会の出身なんですけれども、まず次のステップとして斜網地区という集まりがあって、それがオホーツク管内に繋がって、その会議に色々な連携の情報交換が年に何回も機会を持っています。

また、社会教育委員でも同じような形の繋がりの中でやっておりますので、その中で特に大空町さんと網走市だけがというのは、もちろんこのビジョンの中では先ほどの呼人のオホーツクドームの利用の関係ということで、実例としてありましたけれども、なかなか特化するのは難しいかなと、大空町と網走市だけの例えば社会教育委員の交流とかその辺を新たに持つというのは、なかなか難しいのかなという気はして聞いておりました。

【座長】進めていくとなかなか難しい問題が出てくる。

他にいかがでしょうか。

【委員】今、副座長言われたことを私もある意味同感しているのですが、商工会の関係でお話をさせてもらおうと、大空町、小清水町、清里町、斜里町この4つの町が斜網地区として、ずっと連携して意見交換をしながら共通的な認識の下にできることは一緒にやっっていこうと、人の派遣なんかも一部やったりとかいう形で、商工会という組織の枠組みの中で出来ることはやろうという形でやってきている。

昨年の最後の会議の中で、網走商工会議所と何が出来るか考えてみようということ、事務局に指示したんですが、結局、網走商工会議所と大空町商工会2つだけで何が出来るのかと、その部分でなかなか明快な答えが出なくて、結局動きが止まっているという状況です。

動きたいけれども動けないというか、どこに向かって行ったらいいのかということが見つからない状況がある。

【座長】ありがとうございました。

いくら連携しているといっても、2つの町だけでどうなんだということもありましたし、事柄によっては、こういう機会にもっともっといくつもの自治体が関わらなければならないと、いずれにしてもこのビジョンについては、今どうにもならないでしょうけれども、将来的には、もっと広域に当然なっていくんだろうとは思っていますけれども、とりあえずその核を作っていかなきゃならないというのが、今の作業だろうと、というふうに思います。

いかがでしょうか他に。

始めまして一応1時間くらい経ったわけなんですけれども、ひととおり進行を済ませて、更に時間を作りたいと考えてるんですけれども、よろしいですか？

それでは、議事の2番目、今ずっと議論のあった部分については、それぞれに各委員の皆さん頭を整理しておいて下さい。

また後でお話を伺いますので。

それでは2番目の今後の懇談会の進め方について、事務局から、これ今まで議論のあった部分にちょっと関わる部分です。

【事務局】それでは、2点ございますが、まずは網走市大空町定住自立圏共生ビジョンの改正の時期についてですが、今回、先ほどからご説明しているとおり、3つのポイントで事務局案を作成させていただきましたが、今回の懇談会では平成23年度の決算額を反映させることができなかったことや、文言の整理が必要だという先ほどのご意見がありましたとおり決算額の反映や文言整理も含めて次回の懇談会で整理を



させて頂きたいというふうに考えております。

従いまして平成24年度の予算額、平成23年度の決算額が全て整い文言整理をし、今回と次回の懇談会の意見を反映させた形をもって平成24年度の共生ビジョンの改訂版の完成品として整えたいと考えております。

もう1点ですが、昨年の懇談会の中では、懇談会の開催時期を基本的には4月と10月の開催というふうにお伝えしておりました。

今回は協定の変更がございましたので6月開催ということにしておりますが、今回事務的な作業を進めていく中で、予算の反映を行うに当たっては3月の議会で予算が確定しますが、そこから作業を始めますと、事務局案の作成をしたうえで4月に懇談会を開催するというのは物理的に難しいのではないかと考えております。

また、4月につきましては、構成されているどの団体についても年度当初ということで、そもそも忙しい時期なのではないかと考えておりますので、今後の懇談会は今回と同様に6月と10月の開催を固定化をさせていただければと考えております。

先ほどの協議体から運動体へというご意見もございましたが、それ以前の入口のご提案ですが、2点ご提案をさせていただきました。

【座長】この懇談会の進め方について、2点ありました。

1つは平成24年度のビジョンの改正の時期についてということで、平成23年度の決算額を反映させるためにも、次の懇談会で決算額を反映させたいということで、もうしばらく待っていただきたいということ。

それから最初の頃に言われていた年2回の懇談会の予定日程を4月の部分については6月にすると、これは3月に予算が確定してすぐに4月に懇談会を開催となると色々準備等大変だということで、それでもやれということであれば、死ぬ気でやれということにもなるかと思いますので、6月に固定化させてくださいということです。

だから6月と10月ということになります。

6月と10月の懇談会をどういう形にしていくかと、このままでいいのかと、そういったことについてのご意見等もあろうかとおもいますけれども、いかがでしょうか。

ご意見等あれば遠慮なくおっしゃっていただければと思います。

私の方からちょっと皆さんにご質問いたしますけれども、例えば今回は6月、今日ですけれども、事前にこういった資料等は行ってるんじゃないかと思うんですけれども、それで果たして意見を述べるということができるといえるのかどうかというのはいかがですか。

いろんなご意見は賜ってますけれども、もう1歩踏み込んだ、こういう形にしたらいんじゃないかというご意見があれば、お伺いしたいなと思ったものですから、ご質問させていただいたんです。

【委員】送っていただいてから読ませてもらいました。

基本的にこれを見れば予算の配分でどういう政策がというのはだいたい読めるという感じですが、ただ、これは僕にしてみれば結果報告であって、この懇談会でこれを見てどう実現に向けてとか、意見を出してどう形を変えていくかというようなことに、何回やっても繋がらないのかなというような気がしてます。

やはり、もう少しここで何を決めてとか、ここでどういうお互いの、せっかくこれだけの色んな方が見えていても、それが結局身にならないというか、なかなか自分の物になって、それを返していくようなシステムになってないという、だからましてや年に2回ということになれば、前に言ったことややったことを、これで思い出す程度になってしまって、積み上げて行くという形にならないと思う。

そういう意味で、折角、今後の進め方ということであれば、もうちょっと前向きな発展できるような形に出来ればとは思いますが。

【座長】それでは具体的な今後どうすれば良いかということ、是非一緒に考えていきたいと思えます。

【委員】時間が間空いたもんですから、農協さんとか農業関係者も加えてという話はなかったんですけど。

そういう方向には進めないんですかね。

不思議というか、網走市と大空町の連携以前の話なんですけど、連携というのは非常に難しく、僕も商工会の青年部で特産品の関係に携わってまして、今回は漁協さんとは連携をさせてもらって協力していただいて色々やれていたんですが、なかなか農協さんとは難しい部分があって、やはり誰かが間に入ってもらわないと橋渡しが難しい部分があると思うんです。

あと、ビジョンを見ていくと農業が無いとかなり片手落ちなイメージがどうしてもあるので、是非参加していただける方向で話をさせていただきたいと思っております。

【座長】前にデータさえも載っていなかったというのは、修正を加えたんですけども、今の意見は具体的に農協のメンバーも意見を言うような機会を作ってはどうかというのは難しいですかね。

【事務局】当初は確か連携はどのような事業が考えられるだろうということで、お互いの市と町で色々協議したなかで、農業の連携事業というのはなかなか玉が見つからなかったというか、基本的にそれぞれの市町で完結してしまっているような状況が、農

業の場合非常に多くて連携して実施できる事業が探し出せなかったというのが実態で、当初は農業分野については入れていないという計画にはなってしまった。

ただ、今回見直しした中で地場産業の振興ということで、漁業だけではなく農業も視野に入れて協定を見直そうということで、これは大空町さんと話し合っただけで農業も入れることができるような形で協定を見直したので、ここは玉を捜して農業の関係も入れて出来るような事業も考えられるということで。

【座長】委員の考えは、現状、農商工連携というようなことが色んな分野で進んでいるにも関わらず、何でここだけはそういうのが無いのかということです。

だからやはりネタを探した方が良いかも知れないですね。

是非、この場で連携の方法等について委員、意見を具体的に出していただければ良いんじゃないかと思います。

ただ、現実にオホーツク農協は随分あちこちで既に色々やっていて東藻琴とも合併しておりますし、恐らく農協としてはこういった事業連携ではなく、合併するというような意識が強いのかなと思います。

ただ、委員がおっしゃったのは、そういったことではなく、もう少し個のレベルで連携が出来るような部分の模索が出来ないのかということであろうと、非常に重要なお意見であり、少し考えていきたいなと思います。

いかがでしょうか、他にご意見は・・・

あと、懸案はこのままでいいのか、もう少し間にクッションとなるような組織を入れたほうがいいのか、まあ、厄介な話にもなるかもしれませんが、年2回、6月と10月ですけれども、それ以外にプレ懇談会みたいなものを、何でもかんでも結論なんか出さなくていいから言いたい放題言い合えるようなものをもう1回やるかとか、そっちの方が活性化して良いんじゃないかと思いますが、で、この場にその議論を持ってきてもらうとか、そうすると、もっと色々な意見を出していただけるんじゃないかと思うんです。

本日の案件の4番目その他ですが、特に言っておかなければならないことについて、各委員の皆さんにお伺いしたいのですが、これだけは今日言って帰りたいとか、お願いしたいとか、そういったご意見があればいかがでしょう。

【委員】大空町に地域審議会という会議があって、東藻琴と女満別それぞれ地域の持っている懸案事項について意見交換する会議なんですけど、私は女満別の地域審議会をやらせてもらっています。

その中で、前回申し上げたこと、全く個人的な考えなんですけど、大空町と網走市を結んだ日本陸連公認のマラソン大会を計画してはどうですかと提案したんですけど、

大空町長の方では、ある程度の構想を持ってらっしゃるようで、水谷市長と話をしているようですが、これに35ページのスポーツ合宿や各種イベントにも関連してくるんですけれども、網走市と大空町を結ぶ2つの市町だけの事業として、こういう方法も1つ考えとして有りかなと思っているんです。

昨日サロマの100kmマラソンをぐるっと見てきたんですけれども、スタッフや運営側に凄い人数が必要で、やるのであれば相当覚悟してやらなければならないと思いますし、交通整理や警察官の協力も必要ですし、このために協議会も必要だと思います。

こういうことを1つ1つクリアしながら、できるのであれば協力し合いながらやるのも良いかと、昨日も3千数百の方が参加していたようで、そういう一種の活性化にも繋がると思っております。

【座長】非常に良いお話ですね、ある町でもサイクリングをやっているんだけど、その隣町が全然乗ってこないんで、隣町が協力してくれればもっと良いコースが用意できるという話を聞いている。

広域になれば非常に良いコースを組み立てることができるのは、マラソンも一緒であり、町内でやるのとは大分違うのではないかと、そうすると、観光の分野などでも、もっともっと波及的な効果が出てくるような気がしますし、是非こういったことを進めていけば良いと思いますし、そのためにこの協定や連携があるんじゃないかと思っています。

【事務局】マラソンの話は市長から指示を受けております。

すぐに実施というのはちょっと難しいのですが、スポーツ担当課の方でも取り組んでおります。

【座長】是非協力して進めて行っていただきたいと思います。

【委員】今マラソンの話がありまして、実は昨日参加してきたんですけれども、4,088人の申込があったようで、経済効果も大きいのかなと思いますし、地元でマラソンの構想がありますので、是非実現できれば良いかなと思っております。

【座長】ありがとうございました。

【委員】特に意見はないんですけれども、この懇談会のそもそもの趣旨が定住を促進しようということで、定住ということは網走や大空に住んでいる人は外に出て行かないように、ひいては他所の人は入ってくるようにと、そういう定住を促進するために、連携してどういう取り組みをしたら良いのかということで、我々懇談会で協議を

している訳ですが、先程、農業が入ってないんじゃないかとか分野的に不十分があるという話もありましたんで、ただ、何でもかんでも全部入れちゃうと総合計画とか、昔あった広域圏の市町村計画とかいうふうになってしまって、焦点がぼけるといふことでもあるので、定住を促進するために何をやるかということ、ある程度絞ってここに取り組みを載せていくということだろうと思います。

そこで、さっきも話があったように足りない部分があるかも知れないけど、現時点ではここに入っている部分でベストとは言わなくてもベターに近いような項目が入っているんだろうと思います。

これに足りないものは、これから皆さんの意見の中で出てくるだろうと思いますが、一番大切なのは、先程、どなたかが言ってましたけれども、ここに書いてあるけれども、これが実際に取り組まれないと、絵に描いた餅になってしまうという恐れがありますし、実際にそうなっている部分も多分あるんだろうと思います。

私としては、ここに書いてある部分はこれで良いんですけども、これを具体化するために全部で25の取り組み、細かくは事業数たくさんありますけれども、これらの事業1個1個を趣旨に沿った形で効果を生み出すために、この事業については行政の網走市と大空町のどういう担当の職員が入って、そして民間も例えば社協が入るのか商工会議所が入るのか分かりませんが、事業毎にそういう人達に加わってもらって、具体的に動けるような手立てまで考えると、そういうようなことに持って行ったら良いんじゃないかと思えます。

それをやらないと、本当に絵に描いた餅で終わるんじゃないかと思っています。

【座長】ありがとうございました。

定住という一つの概念が、個体の事業をトータルで結節させるということもあろうかと思えますし、もう1つはやはり絵に描いた餅にしないためにも、誰が関わるのかとか、具体的に何時まで何を何処までやるのかとか、そういったようないわゆるステップアップの計画の再整備もしていけないと、文言だけが凄く立派だなという話で終わってしまうことあろうかと思えます。

そういうことが本当にできたら、別に競争するわけではないけれども、他の地域のビジョンと比べても遜色ない位になっていくんじゃないかと、せっかく作るんだったら、そこまで作って行きたいなというのが一委員としての私の希望なんですけれども、是非それを進めていければと思いますので、よろしく願いいたします。

【委員】救急に関しては、幸い網走と大空において救急協議会という組織がございまして、更に消防は網走が本署で女満別と東藻琴が分署という形で協力していただけることになっております。

大空町としては1病院、1診療所だけですので、色々と網走には助けをいただいたり、更に斜網地区も加わってこれから活動していくというようになっております。

消防が中心になっておりかなり頻繁に交流もできておりますので、医療は助かっております。

網走としてはご迷惑かもしれませんが、大空町は非常に助かっております。

【座長】やっぱり命を助けるという連携協力ですから、どちらが迷惑でどちらが良いということではないと思います。

地域住民が死ななくても良い命が助かるということですから、そういうシステムを作ろうというのが、この趣旨だろうと思います。

【委員】地域間交流はここに出されている医療、福祉、教育、観光、交通等全て大切なんです。

その中でも非常に重要なのが流通であり交通網の整備なんです。

それで交通網の整備をどうするかというと、関係町村で5年協議しても10年協議しても非常に難しいだろうと思うんです。

しかし、定住自立圏は皆さんの中でここまで話が出たんです。

そこで、やはり平成27年くらいまでには、この中の教育でも福祉でも医療でも良いので1点だけでもプロジェクトチームを作ってやってみるという方向付けも必要なのかなと、そうすると、これを全部やりなさいなんていうのは無理な話なので、絞ったらどうかなというふうに考える必要があるのかなと、我々はそういった方向付けを示唆したらどうかなと思います。

【座長】積極的な意見ありがとうございました。

是非そういったことも含めて、議論を進めて行きたいと思っております。

できれば、そういった組織もできればなど、我々にどれくらいの権限が与えられているか、僕自身分かっていないのですが、できる限り皆さんのご意見は具体化していくと、それがこの懇談会の意味だろうと思いますので、是非その点も合わせて進めて行きたいと思っております。

【事務局】なかなか成果が見えにくいというお話だと思っておりますが、平成23年度の決算が明らかになると、もう少し見えてくるのかなという気がしています。

私は3月まで保健医療の方におりましたので、先程、服部委員さんからありましたように、今、地域医療、救急医療が様々な地域で崩壊しておりまして、藤永委員がよくおっしゃっていると思うのですが、その中であって、平成23年度につきましては、

斜網地域という広い範囲ではありますが、その中では消防組合が斜網地域と網走大空と違っていたり、医師会の所属が大空町さんが美幌医師会、それ以外が網走医師会だったり、様々なかなか乗り越えられない垣根があったようなんですが、それを関係者の議論の中で1つのものとして創り上げたというのは、大空町と網走市が定住自立圏を組んでいたというのも背景にはあったというのが、議論の中に入っていて感じていますので、そういう効果もあるんだろうというふうには、感じております。

他にも後ほどお話させていただきたいと思っておりますけれども、市町の施設を住人であれば同じように使えるという方向に今、準備を始めておりますので、もう少し長い目といたしますか見ていただければと思います。

【座 長】ありがとうございます。

今までの全体の意見交換を通して、ご意見があれば自由におっしゃって下さい。よろしいですか。

事務局の方から何かございますか。

【事務局】その他で1点だけ経過報告をさせていただきたいと思っております。

今ちょっと触れたんですけれども、以前、懇談会の中で委員の方からご指摘のあった事項を検討しているという中身でございます。

公共施設利用料に関しまして、両住民が同じ条件で使えないかということで提案がございまして、実は3月に提案を受けたというふうに聞いているのですが、その後、両市町で協議をしております。

先程もオホーツクドームの利用でスムーズに行かなかったという事例がありましたけれども、いくつかの超えなければならぬハードルがあります。

1つは多くの施設が指定管理者制度で運営されているということで、例えば減免措置を同じにした時に、それを誰が補填するのかといった問題で、施設は指定管理者が使用料で運営していくということになっておりますので、そういう問題がありました。

それからもう1つは、施設の使用料を町民市民であれば減額をしている場合と、町民市民以外であれば割増をかけている状況がありまして、そこをどうフラットにしていくのかということと、もう1つは助成制度を持っている場合、特定の年齢以上の方には例えば1/3を助成しますといった予算がかかってくるという状況がありましたので、3月の段階では、予算に配慮しなければならない施設につきましては、平準化は難しいという判断を今しております。

それ以外の中で、どんな施設で条件をフラットにできるのかということで、今、議論を進めている最中で、網走側からは「食品加工体験センター(みんぐる)」という施設がありまして、食品加工をするという施設がなかなかない、あるいは混んでいて

使えないという状況が両市町の共通の課題があったので、ここを共通に使えないだろうか、それから、農産物高次加工研究所という金印わさび工場のすぐ近くにありませんけれども、これも農産加工の施設ですが、これについてどうかと、もう1つは勤労青少年ホームという勤労青少年を対象にした施設がありますが、これについては、現実的に大空町の方も吹奏楽団などでは一緒になって使用している状況がありますので、ここを平準化することができないか、それと両市町で非常に利用が多いのがパークゴルフ場です。

ここも指定管理や、減免、割増の制度がありますが、ここを何とかどちらの市民でも町民でも同じ条件で使えないかということについて、現在議論を重ねておりますので、結論についてはもう少し時間をいただきたいと考えております。

これについては、施設によっては条例や規則の改正が必要となってくるので、目途としましては9月議会を経て実施というスケジュールで準備を進めていますので、次回の懇談会では詳細の報告ができるというふうに考えております。

なかなか成果が出ないというふうにご指摘をされていますが、少しずつ前に進めて行ければなと考えております。

【座長】ありがとうございました。

少しずつですけれども、進んでいると経過報告がありました。

これについて、ご質問ありますか。

今挙げた施設以外にも少しずつ広げていくということも必要なんじゃないかと、とにかくできるところからどんどん進めていくことが大切だと思います。

ご意見なければ、今日用意した内容については全て協議いただきました。

以上で第5回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会を閉会いたしたいと思います。

ありがとうございました。